令和７年度 第１回庄内町振興審議会【会議録】

日　時：令和７年４月 22 日(火)18:30～20:45
場　所：庄内町役場Ｂ棟 2F 会議室２

出席者：門松秀樹会長、佐藤道子職務代理、梅木均委員、秋葉正一委員、大滝敬一委員、川井利光委員、渡會正委員、渡部幸雄委員、渡部菜穂子委員、阿良直美委員、齋藤吉昭委員
（事務局）樋渡企画情報課長、我妻企画情報課長補佐、伊藤主事
欠席者：斎藤克行委員

１　開　会　18:30 樋渡企画情報課長（進行）

２　会長あいさつ
庄内町の次の十年ということを考えていく上で、非常に重要な会議になるので皆様からの忌憚のない御意見をいただきたい。。

３　協　議
(1)　各分科会報告について
①　総務文教厚生分科会　梅木均分科会長報告
②　産業建設分科会　渡部菜穂子分科会長報告

【委員】基本目標 4-（7）消費者を守る対策の充実の中に出てくる「エシカル消費」という言い方が一般的に浸透していないので他の言葉に置き換えた方がいいのではないか。
【委員】※で説明をつけるか言い換えた方がいい。
【事務局】前回の計画のときもかなり注釈はつけた経緯がある。注釈を多用するのは慎重に考えるべきであるが、新しい言葉を使っていくということは悪いことではない。
【会長】国連でも SDGｓは今後利用可能な発展を維持するための世界的な目標であるということを出すので、一応こういったことがもうしばらく国際社会の中心的な話題であるというところも含め、注釈をつけつつそれぞれの用語を用いて、町の地域計画等でも活用していくということになるのかとは思う。言い換えるというよりは、説明するための注釈をつけるという方向性の方がよいかもしれない。

(2)　答申書（案）について

資料１　答申書（案）　事務局より説明

【委員】将来像の中にある「宝」が「地域資源」（＝「人」「モノ」）の意味であると分科会で検討した人であれば分かるが、これだけを見る人は、その意味が分からない可能性があるため注釈をつけた方がいい。

【会長】何かに置きかえるのは難しいが、「地域資源」を「宝」として表現している注釈を加え、同一の内容を指しているということを初めて見た方にも分かるようにするのがいいかもしれない。

【委員】「宝（地域資源）」とするのはどうか。

【委員】初めから「地域資源」に注釈をつけることで、その後の「宝（地域資源）」の箇所でも地域資源とは何か分かるので加えた方がよい。

【委員】今回の答申は、基本構想（案）に対する自分たちの意見であり、この文章そのものが計画の基本理念になる訳ではない。この答申を受け町として、計画を見直していくという形となるため、注釈をつけるなどは町の判断ではないのか。

【会長】外部に公開をする答申書であり、この振興審議会がどういう提案をしたのかなど町民の代表的な立場となるので、どういう意見が交わされたのかなど確認いただくものとなる。この議論を把握していない方に、これはそれぞれ何を指しているのかという注釈あるいは説明を加えた方がよいのか、一方で答申の対象が町であり審議会からの意見であれば細かい説明をつけなくてもよいのではないかなど、2 つ意見をいただいたが、審議会の答申としてはどういった形が望ましいか。

【委員】基本理念(3)の「地域資源」は人により受ける印象が違う。そのため将来像のところで「宝」に言い換えているという説明がある方が読む人に響くと思う。注釈に関してはあまり入れないようにしたい。あまり標語的にならないよう、シンボリックな言葉を行動指針にと思う。

【委員】庄内町は人口の 1 割しか農業をやっていないとはいえ、米の故郷であり、水田があるなど誇り高き町だと思う。その庄内町で将来的に水田をきちんと残していく、農業の後継者を守っていくというところをしっかりと基本理念あるいは将来像でうたうべきではないか。

【事務局】文化の継承も難しいという意見もいただいているが、当然農業で発展してきた町であり、1 つの地域資源であると思う。

【委員】地域資源の説明にいれてもらえたらいいかと思う。

【会長】個別に列挙し本文の中に入れると話が非常に長くなるので、注釈で地域資源とはこういうものと列挙する形の方が、文章表現上はまとまった表現となる。

【委員】人と人のつながりという表現を共生という一言に置き換えてはどうか。

【会長】地域資源に関して、注釈を入れるか、きちんと本文に組み込むか、もしくは細かい注釈等は不要ではないか等意見があれば発言してほしい。

【委員】「地域資源」や「宝」という言葉には手を加えず、抽象的なままとする方が町の宝とは何かという議論が生まれてくるのではないかと思う。

【委員】基本構想、基本理念、将来像を順番に読んでいくと自然と「宝」の意味がわかるので注釈は不要と思う。

【委員】地域資源は何があるかを示すと多くの言葉を指すので、原案の通りでいい。

【委員】基本理念の「選ばれる魅力あふれる豊かな町」の「選ばれる」という部分が不要ではないか。

【事務局】これからの 10 年について若い人や都会に住んでいる人からここがいいと選んでいただける場所にしたいという強い思いがある。人口減少が進む中、少子化対策をする上で、若い女性から選んでいただく町にならないといけない。

【委員】その思いがあっての「選ばれる」であれば、そういう思いをあえて前面に出して、「若者に選ばれる」と言い切っていいのではないか。そうすれば「選ばれる」という言葉を入れたいという思いを残せる。「選ばれる」だけであると、いろんな意見が出てくることになる。

【会長】「選ばれる」の具体化だけではなく、ターゲットがある程度定まっているのであれば、若者と明記することを審議会としての意見ではどうか。

【委員】基本構想を順に読んでいくと、若い世代というところで若者に触れているのでわざわざ「若者に選ばれる」と変えなくてもいいと思う。「地域資源」や「宝」についても細かくすると大変なので注釈は不要と思う。「人と人のつながり」の部分を「共生」に変えるかはなんとも言い難い。

【会長】文章として全体の流れを把握いただければ、それぞれの趣旨が理解ができると考えられ、一方で説明が過剰となることから原案どおりとし、抽象的なところをそのままにして、議論するきっかけにした方がよいとの意見である。また「人と人のつながり」を共生という言葉として置き換えたほうがいいという点については、ほかの委員の皆様からの意見を伺いたい。

【委員】「人と人のつながり」の前に「発信」とがあるが、その単語の流れで来るとテンポよく進むため、変えずにこのままでいいと思う。注釈についても、誤解されないようにつけるものなので不要だと思う。

【委員】「人と人のつながり」については「共生」に変えず原案のままでいい。

【会長】将来像については、原案どおりとしたい。

【委員】総務文教厚生分野の(5)の利用者の拡充、という表現が分かりづらい。

【会長】(討議の結果)「利用者数の拡大」という表現に修正したい。その他の内容については、基本的には原案のとおりとし、これをご覧いただいた方の議論の呼び水として、地域資源とは何か、地域の宝とは何かということを考えるきっかけとする。施策方針のデマンドタクシー等々、公共交通機関については、「利用者数の拡大」に修正し、当審議会からの答申といて町長に提出したい。

(3) その他

【委員】地域格差についていろいろ意見があるが審議会の委員について地域に偏りがあるように感じられる。第三者から見たときに偏って見られてしまうので、次年度以降審議会の委員の選出の際は立川地域からも積極的に委員を入れてもらいたい。

4　その他（進行：課長）

(1) 今後のスケジュールについて

〇4 月下旬　答申（基本構想）

〇5 月 23 日頃　第 2 回庄内町振興審議会全体会/
　　諮問（第 3 次庄内町総合基本計画について）

〇5 月 30 日　第 2 回庄内町振興審議会分科会/ヒアリング　他

〇6 月 11 日　第 3 回庄内町振興審議会全体会

〇6 月 18 日　第 4 回庄内町振興審議会全体会

〇6 月下旬　庄内町振興審議会/答申

5　閉 会　20：45 樋渡企画情報課長（進行）